



新入生を代表し誓いの言葉を述べた鈴木真里さん



新たな門出を迎えた盛岡二高の新入生

盛岡市で125年に及ぶ歴史を持つ盛岡二高（鈴木広樹校長）で8日、入学式が行われた。新入生184人が下ろしたての制服に身を包み、高校生活の第一歩を踏み出した。新入生は担任教諭を先頭に、吹奏楽部の演奏に合わせて入場。新型コロナウイルス対策のため、家族の参加は各家庭で一人までと制限されたが、保護者らは子どもの成長に目を細めながら、手拍子で出迎えた。新入生一人ひとりが呼名される

期待と希望に心満ち

盛岡二高の新入生184人

初々しく高校生活の第一歩

鈴木校長は式辞で、「コロナ禍でつらい状況の中、努力を重ね、木真里さんが3年間を乗り越えた。過去の高校生活の入り口に、自分にお疲れさま、立ち、心は期待と希望、新入生は目をみはり、新たな門出を迎えたい」と宣言していた。鈴木校長は「一人ひとりの大切なお子さんを預かる。3年間で大きく成長できるように支えていきたい」と話していた。

（盛岡タイムス）

この記事は盛岡タイムス社の
許諾を得て転載しています。